

Title	表紙・編集後記・目次
Author(s)	
Citation	英文学評論 (1962), 11
Issue Date	1962-03
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/134950">http://hdl.handle.net/2433/134950</a>
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

# 英文學評論

## 第 XI 集

呪われた運命……………尾崎 寄 春

——『ハムレット』におけるモラルとアクション——

「詩的想像力」における根本問題序説 (1)……………竹 森 修

——ロマンチズムを中心として——

アーノルドの古典主義 (2)……………川 田 周 雄

『猿と本質』に就いて……………中 野 正 順

フランク・ノリスの文学的本質……………安 藤 昭 一

京都大学教養部英語教室

# 目次

呪われた運命……………	尾崎寄春…………(一)
——『ハムレット』におけるモラルとアクション——	
「詩的想像力」における根本問題序説 (1)……………	竹森修…………(呪)
——ロマンチズムを中心として——	
アーノルドの古典主義 (2)……………	川田周雄…………(齒)
『猿と本質』に就いて……………	中野正順…………(八)
フランク・ノリスの文学的本質……………	安藤昭一…………(二三)

## 編集後記

かつて、当教室編纂の『英国の詩論』を生み出す母胎であった教室研究例会が、数年間の中断のあと、教室員一同のたかまの要望によって、本年度から再開されることになったことは誠に喜びにたえません。それぞれ個性と研究領域の異なった人びとが意見を発表し、共に話し合う機会をもつということはお互を大いに裨益することと信じます。これまでですでに、山村氏「英国婦朝談」、鴨原氏「アン・ポーターの声」、岡田氏「トマス・ハーディの『テス』について」、尾崎氏「シェイクスピアのヴィランについて」、山崎氏「アリス・メネルの隨筆」、が発表されましたが、この研究会が今後益々発展し、その成果が第二、第三の『英国の詩論』となって世に出ることを急じて止みません。

本誌は前年に引きつづき本年度も二回刊行されることになり、最初の企画では、第一回を十一月、第二回を三月と時期をずらして出す予定でしたが、結局年度末ぎりぎり相接して出るような破目になりました。この点お詫び申し上げます。来年度から何とか改められることを切望いたします。

なお川田、竹森両氏の論稿は次号へ続く予定です。

最後に、目下コロンビア大学でご研究中の松下千吉氏のご健勝を祈ります。

(編集委員)

## 英文学評論 第十一集

非売品

昭和三十七年三月二十五日 印刷  
昭和三十七年三月三十日 発行

編集者 京都大学教養部英語教室

代表者 山村 武雄

印刷所 明文舎印刷株式会社

京都市上京区今小路通御前西入ル

発行所 京都大学教養部英語教室

京都市左京区吉田二本松町

# REVIEW OF ENGLISH LITERATURE

VOL. XI. March 1962

---

## CONTENTS

'Cursed Spite' : An Essay on *Hamlet* ..... *Yoseharu Ozaki*

An Introduction to the Study of Romantic

Imagination (1) ..... *Osamu Takemori*

Classicism of Matthew Arnold (2) ..... *Kaneo Kawata*

On Aldous Huxley's *Ape and Essence* ..... *Masanori Nakano*

Characteristics of Frank Norris' Works ..... *Shoichi Ando*

---

ENGLISH DEPARTMENT  
COLLEGE OF LIBERAL ARTS  
KYOTO UNIVERSITY